



「Happy Birth & Happy Baby Project」

■ ロータリー財団 グローバル補助金プロジェクト ■

2019-20年度活動報告

国際ロータリー 第2580地区 宜野湾ロータリークラブ

本プロジェクトの基本情報 - 1

ロータリー財団グローバル補助金プロジェクト申請書(抜粋)

■基本情報

○クラブ名 : 宜野湾ロータリークラブ

○プロジェクト名 : Happy Birth & Happy Baby Project

○プロジェクトの代表連絡担当者

	氏名	クラブ	地区
<input type="checkbox"/> 実施国側	Tovuudorj BOLORMAA	TUUL Rotary Club	3450
<input type="checkbox"/> 援助国側	佐竹 靖幸	横浜金沢ロータリークラブ	2590

○重点分野プロジェクト (ロータリーの6つの重点の1つ)

平和と紛争予防/紛争解決 疾病予防と治療 水と衛生

母子の健康 基本的教育と識字率向上 経済と地域社会の発展

本プロジェクトの基本情報 - 2

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

3 すべての人に
健康と福祉を



3 すべての人に
健康と福祉を



3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



VACCINATE
YOUR FAMILY.

Vaccinations resulted
in an 80% drop
in measles deaths
between 2000 and 2017.

 SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

本プロジェクトの基本情報 - 2

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

3 すべての人に
健康と福祉を



3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



1 貧困を
なくそう

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に



3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING

VACCINATE
YOUR FAMILY.

Vaccinations resulted
in an 80% drop
in measles deaths
between 2000 and 2017.

 SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS

本プロジェクトの概要

■本プロジェクトの主な目的と受益者について

モンゴルの新生児死亡率は非常に高い現状がある。(18.9人/1000人)

比: 日本(0.7人/1000人) 日本の約27倍

モンゴルでは現在新生児蘇生は、各病院の新生児科医が実施している。
殆どの助産師が新生児蘇生技術を習得してなく、改善することが急務となっている。

そこで、本プロジェクトにより、
新生児の急変時に、蘇生を行う技術を多くの助産師が習得することで、
モンゴルの新生児死亡率の低下は元より、
母子の健康向上に寄与することとなる。



■本プロジェクトへの宜野湾RCの取り組みへの経緯

2017年 日本助産師会の当時会長(横浜金沢RC所属会員)と、理事である宜野湾RC会員との繋がりが切っ掛け。

2018年 合同参加勧誘により、会員の協力への理解を得て、寄付金を募り、グローバル補助金申請手続きに着手。

2019年 TV面談のヒアリングや、厳正な審査のうえ許可が下りる。

プロジェクトの実施

実施国： モンゴル共和国

実施地： ①ウランバートル市内(第1～第3産科病院)

・新生児蘇生法インストラクターの養成研修を実施

②モンゴル全国21県の各産科病院

・新生児蘇生法を習得したインストラクターを主体として伝達研修を実施

③TUULロータリークラブ、モンゴル助産師会による村の助産師への研修

実施時期： 2019年9月

協力団体、協力パートナー

- ・ 日本助産師会
- ・ モンゴル助産師会
- ・ 日本新生児蘇生法(NCPR)認定インストラクター



成果の特定

新生児蘇生法研修を、モンゴル国ウランバートルで実施することにより、伝達研修にて指導するインストラクターを養成し、全国21県で働く助産師(900名余)を対象に伝達研修を実施する。

本プロジェクトを契機に、全国的に新生児蘇生法を含めたブラッシュアップ研修を適宜実施し、受講報告等を義務化することにより、研修の成果の実情が把握できる。

プロジェクトの実施

■資金計画(通貨: US\$176,000.00.-)

日本円:約1,900万円

■プロジェクトの予算

内容	業者名	金額(US\$)
蘇生人形と蘇生器具一式 資料 1	株式会社星医療酸器	72,700
輸出手続き、輸送費	日本通運株式会社	2,900
輸入手続き、デリバリー	TBA	3,200
関税	モンゴル国輸入関税	5,700
General Training	ウランバートルでの研修 2 回	35,100
Accomodation	日本人指導者・アシスタント交通費・宿泊費	8,900
Pilot training	地域トレーニング 2 回 (村の助産師を対象のトレーニング。Accomodation(村の助産師達の往復交通費、講師の交通費、宿泊費) Venue(会場費)、Printing(テキスト、印刷、文具、ポスター、配布資料)	23,200.
Monitoring Evaluation	Documents, Survey	3,800.00
Text	1Neonate CPR training seminar texts 2translation 3Japanese adviser 4Assistants	14,000.00
Project Management	1Operations 2Project management	2,800.00
Project Management	1Operations 2Project management	3,700.00
	小計	176,000.00

プロジェクトの実施

■資金調達

資金源	詳細	金額 (USD)	WF からの上乗せ (US\$)
2590 地区 G補助金	DDF	49,450 .00	49,45 0.00
2580 地区G補助金	DDF	33,000 .00	33,000 .00
横浜 金沢 ロータリークラブ	現金	4,4 00.00	2,2 00.00
宜野湾ロータリークラブ	現金	3,000.00	1,500.00
	小計	① 89,850 .00	② 86,15 0.00
	資金調達額合計(B)	① + ②	176,000.00

■活動経過

活動内容	期間
1.2590 地区オンライン申請—3540 地区オンライン申請確認—2580 地区オンライン申請確認承諾	2019 年 3 月
2.モデル (シュミレーターLM-089) と蘇生器具の発注及び納品確認	2019 年 3 月下旬
3..新生児蘇生法研修のテキストなど教材準備	2019 年 3 月下旬
4.研修会スケジュール、会場設定、準備、モンゴル助産師会—会場準備、日にち決定、講師依頼	2019 年 3 月下旬—4 月
5.モンゴル各 21 県研修受講者選定、受諾、研修会出席手続き開始	2019 年 4 月初旬
6.新生児蘇生法—ウランバートル会場設定	2019 年 4 月中旬
7.新生児蘇生法研修実施 (ウランバートル)	2019 年 4 月末～5 月
8.新生児蘇生法伝達研修実施 2 地区 (ザブハン県、ドンゴビ県)	2019 年 5 月～
9.モンゴル助産師会、TUULRC 振り返り調査及び研修実施	2019 年 6 月～

モンゴルでの活動

宜野湾RCチーム



宜野湾RCから6名参加出発



モンゴルでの活動

横浜金沢RC・宜野湾RC合同チーム



開会式セレモニー



研修セミナー

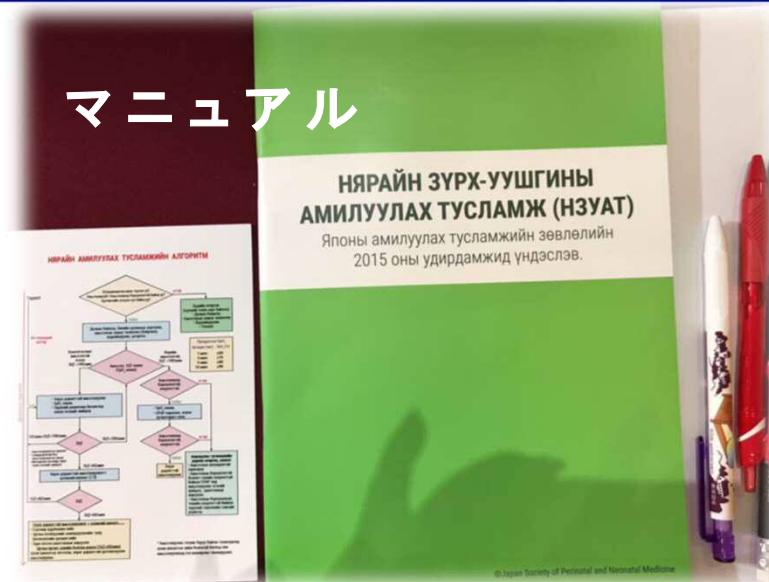


モンゴルでの活動

横浜金沢RC・宜野湾RC合同チーム



96人の
助産師が
トレーニング



新生児蘇生法習得研修スタート



モンゴルでの活動

横浜金沢RC・宜野湾RC合同チーム

新生児蘇生法実習・動画



モンゴルでの活動

横浜金沢RC・宜野湾RC合同チーム

PACKING LIST

① Neonatal Resuscitation Model (with storage bag) × 1 	② Silicon Resuscitator for child × 2 	③ Ambu-kingmask (for child)1022 × 2 	④ Laryngoscope Handle (Macintosh) 140mm thin × 2 	⑤ Laryngoscope Brade(Macintosh) Brade No.1 52mm Mirror × 2 
⑥ Stethoscope for newborns (Littmann Classic II Black/Pearl Pink) × 2 	⑦ Airway tube air-Q size : 1.0 blue × 2 	⑧ Tracheal Tube without Cuff(Siliconized PVC) Inside diameter:2.5mm × 2 	⑨ Tracheal Tube without Cuff(Siliconized PVC) Inside diameter:3.0mm × 2 	⑩ Tracheal Tube without Cuff(Siliconized PVC) Inside diameter:3.5mm × 2 
⑪ Stylet(Tracheal tube) (For inserting tracheal tube)small φ2X300mm × 2 	⑫ Exhalation gas detector Pedicap for child × 3 	⑬ Nutrition cap (with cap) 6Fr. φ2.0x400mm × 3 	⑭ Suction catheter (for endotracheal intubation) 6Fr.x 300mm × 3 	⑮ Suction catheter (for endotracheal intubation) 8Fr.x 400mm × 3 
⑯ Suction catheter (for endotracheal intubation) 10Fr.x 500mm × 3 	⑰ Suction catheter (for endotracheal intubation) 12Fr.x 500mm × 3 	⑱ Valve syringe 60cc × 2 	Rotary 	



一式



配付用
蘇生キット



蘇生キット
配付贈呈式

Happy Birth & Happy Baby Project

宜野湾ロータリークラブ



モンゴルでの活動

横浜金沢RC・宜野湾RC合同チーム



ボディアート



露木2590PDG

マスコミ取材
(地元モンゴル)



atロビー



連携3クラブのスタンドバナー

モンゴルでの活動

～ ウランバートルツールRCとの交流 ～

ツールRC会長



モンゴル



モンゴル



2019/9/15



モンゴル共和国の
初代国会議長



モンゴルのゲル及び自然 ~ ウランバートルツールRCとの交流 ~



モンゴルのゲル及び自然 ~ ウランバートルツールRCとの交流 ~



ロータリーの友に掲載1/2

横浜金沢RC 山本 詩子 会員

■2020年4月号 「母子の健康月間」特集記事

前・日本助産師会会長 山本 詩子 会員 寄稿

Happy Birth & Happy Baby Project in モンゴル

Rotary Global Media Network

●本誌上でRCはロータリークラブ、RIは国際ロータリーの略です。
●縦組みの目次は、反対側の表紙を開いたページにあります。●本文・写真などの無断転載・複製を禁じます。

特集 母子の健康月間

命のために
できること



4月は母子の健康月間です



4月は母子の健康月間です。神奈川県横浜金沢RCは、沖縄県宜野湾RC、モンゴルのトゥールRCと共に、幼い命を救うため、モンゴルで助産師の研修を行い、そのための機材を寄贈しました（関連記事 P8～9）。

ロータリーの友に掲載2/2

横浜金沢RC 山本 詩子 会員



生まれた命を失わないために
— モンゴルで“母子の健康”事業実施

横浜金沢RC国際委員長 山本 詩子

モンゴル助産師のスキルアップを目指して

横浜金沢ロータリークラブ（RC）は今年度、クラブ創立50周年の記念事業として、宜野湾RC（第2580地区・沖縄県）とトゥールRC（第3450地区・モンゴル）と協同で、モンゴルの母子保健向上のためのプロジェクト「Happy Birth & Happy Baby Project」を実施。ロータリー財団のグローバル補助金を活用し、17万6,000ドル（約2,000万円）の費用を事業に充て、18名の助産師が（公社）日本助産師会と九州大学大学院がモンゴルで行った共同研究に携わったこと。調査を含む4年間の研究成果から、これはロータリー財団のグローバル補助金事業にふさわしい案件ではないかとの結論に至りました。モンゴルの新生児死亡率は1,000人当たり約10人で、日本の約10倍に相当します。これを減少させるためには、分娩時に新生児のすぐそばにいる助産師の技能、特

に新生児の蘇生技法を習得させる必要があると考えました。蘇生ができる助産師をモンゴル全21県で養成することで、新生児や乳幼児の死亡率を減少させ、モンゴルの助産師全体のスキルアップを目指すことにしました。プロジェクト後も、研修を受けた助産師が新生児蘇生法のインストラクターとなり、各県で指導に携わることで新生児蘇生法が普及していくので、死亡率を減少させることが可能です。地域社会のニーズを自力で満たす能力を向上させることができ、持続可能な目標（SDGs）の7つ目標の「すべての人に健康と福祉を」にも貢献できると考えました。

着手に至るまでには

当クラブは伝統あるクラブですが、会員数が15人と少なく、資金の面からも共同実施してくれるクラブを得ることが必要でした。クラブ内でなかなか同意を得られませんでした。日本助産師会の先輩が、所属する宜野湾RCへ働きかけてくれたおかげで、賛同が得られました。さらに地元モンゴルでも協力クラブを見つける必要がありましたが、知人の紹介でトゥールRCに巡り合うことができました。両クラブの素晴らしい会員を抜きにしての実施は考えられず、人のつながりの重要性を再認識する機会ともなりました。その後、文章作成を含めロータリー財団の承認を得るまでに1年以上を費やしましたが、既に共同研究



取材を受ける
露木団長

を通じて信頼関係が築かれ、モンゴル助産師会の協力が得られていました。また、驚いたことに、トゥールRC会長のラドナシムベレリーイン氏はモンゴル民主化革命を無血で行った英雄の一人とたたえられ、初代国家議長として国会議事堂に肖像画が掲げられているほど。その他にも多くの会員が国会議員や大臣など国の要職にあることから、国家的プロジェクトに反映されていくとの確信がありました。

プロジェクトの特徴

着手してみると、実際に国を挙げての協力を得られ、全21県の保健省が、研修の受講者に公式な認定証を渡してくれることになりました。また、受講者がインストラクターとなり、各県の国立病院で繰り返し研修を実施するよう保健省が通達したことで、持続可能性も高まりました。研修に使う教材などは現地調達が可能ですが、新生児蘇生トレーニングに使う人形が現地で入手できず、メンテナンスを考慮し、アナログ式でデジタル操作のないもの確保して日本から送ることにしました。

贈呈セレモニーは昨年9月14日、モンゴル保健省をはじめ各機関長官の出席を得て、盛大に開かれました。からは第2590地区財団委員長の露木雄二（タスカバナー）を団長に総勢18人、関係地区以外の日本の地区からも参加がありました。マスコミの関心は高く、露木団長はモンゴル国営放送の取材を受け、その様子はニュースで放映されました。

プロジェクトは全県の保健省が関わり、研修も国立病院で行うため、ユニセフや世界保健機関（WHO）の統計の対象となり、効果と評価が可視化できる特徴があります。また共同研究の際、助産師業務拡大の法改正が行われ、今後、助産師の技能拡大は必ずであり、大きな期待を寄せています。

助産師たちの決意に触れて

セレモニーの翌日、研修の様子を見学しました。96人の助産師たちは熱心に講義を聴き、昼食時間さえ惜しむかのように新生児蘇生法のトレーニングを

4月 母子の健康月間

重ねていました。日本から派遣された医師に質問を投げ掛け、真剣なまなざしで取り組む様子に、見学したロータリアンたちから称賛の声が漏れました。モンゴルの未来は、彼女らが担っているといっても過言ではありません。実施に至る経緯を思い起こせば感慨深く、感動を味わう時間となりました。

受講生たちからは感謝とともに「研修を受けた自分たちが、各地で待っている助産師たちに技術を伝え、さらに技術を向上させなければならない」との決意が聞かれました。研修継続への要望もありました。悪路をバスで乗り継ぎ、30時間以上かけて参加した人もいます。並々ならぬ決意で参加してくれたことが分かりました。各県から派遣され、交通費や宿泊費なども支給され、政府発行の研修認定証まで受けられることは名誉であり、研修後の彼女たちの自信に満ちた表情が忘れられません。

また、研修見学の後はトゥールRCの招待で、モンゴルらしい風景が広がる草原も眺めてきました。言葉の壁はありましたが、ロータリーの精神で心は通じ合い、楽しい夕食のひとつを共にしました。

現在、持続可能なプロジェクトとして展開していますが、今後はさらに一歩進め、揺るぎない継続と効果を期待し、グローバル補助金を活用した職業訓練チーム（VET）の育成も視野に入れていきたいです。また、研修協力関係の強化で、さらにもっとも考えています。（第2590地区 地倉由紀）



新生児蘇生法の
トレーニングに
励むモンゴルの
助産師たち

● び静聴ありがとうございました。ニヘデービル ●



トレーニング機材を寄贈



右から2人目が筆者